

AsiaNet 55700

共同 JBN 0120 (2014.2.11)

◎第 4 期肺癌患者が非毒性代替治療で 10 年間がんなし

【スコッツデール (米アリゾナ州) 2014 年 2 月 11 日 PRN=共同 JBN】

*再発肺癌が統合免疫療法に反応

肺癌は世界でがん関連死の最も多い原因であり、悪性度の高い小細胞肺癌の予後は最悪である。近年は免疫療法の広がりがかんに苦しむ人々に新たな希望を与えている。

いくつかの有力ながんセンターは免疫療法の導入を始めたばかりだが、イッセルズ (Issels) は数十年にわたり統合免疫療法のリーダーである。

1951 年にジョセフ・M・イッセルズ (Josef M. Issels) 博士は統合免疫療法に基づく統合腫瘍学専門の病院を世界で初めて設立した。博士は標準療法に耐性のあるがんの長期完全寛解の記録を達成した (http://www.issels.com/cases.aspx?utm_source=prnw&utm_medium=press&utm_campaign=pr2014jan21)。この専門知識によってイッセルズ博士は 1981 年から 1987 年の引退に至るまでがんと戦うドイツ連邦政府委員会の専門家メンバーとなるよう招かれた。

イッセルズ統合免疫療法 (<http://www.issels.com/>) は樹状細胞や免疫システムの細胞レベルで包括的な免疫生物学の中核治療で働き、腫瘍の微小環境に対応する自己リンフォカイン活性化キラー (LAK) 細胞、活性化自己ナチュラルキラー (NK) 細胞など特定の自己由来がんワクチン (http://www.issels.com/treatmentsummary.aspx?utm_source=prnw&utm_medium=press&utm_campaign=pr2014jan21) を統合する点で、単なるワクチン投与とは決定的に異なっている (http://www.issels.com/vaccines.aspx?utm_source=prnw&utm_medium=press&utm_campaign=pr2014jan21)。このイッセルズ戦略は人体の複雑な防衛メカニズムを強化し、ジム・ギブソン氏の例で見られるようにワクチン、細胞療法の効能を高める。

2003 年 3 月、ジム・ギブソン氏はすべての肺癌のなかで最も死亡率の高い再発小細胞肺癌に対して樹状細胞ワクチンを含む非毒性イッセルズ統合免疫療法を受け始めた。イッセルズ免疫療法だけを受けた 4 週間後に腫瘍の完全寛解が達成され、その後 10 年間は標準療法は受けていないのにがんはなく、非常に元気である。

ニコル・タッパー氏は虫垂の転移腺がんにはイッセルズ免疫療法の中核治療だけを受けた経験について「イッセルズは最後の頼りだった。ここに来たとき、私は混乱していた…そして突然とんとん拍子によくなり始めた。最後の超音波検査で 12 センチあった腫瘍が完全に消え、ほかの腹部の腫瘍も全部半分以下の大きさになった」と説明している。

同氏は患者が先進的な遺伝子標的がん療法を受けることもできるイッセルズ米国人外来施設 (http://www.issels.com/issels-medical-center.aspx?utm_source=prnw&utm_medium=press&utm_campaign=pr2014jan21) でイッセルズ免疫療法中核治療を受けた。

イッセルズの医療チームは高度に個人化された包括的免疫療法プログラムに数十年の専門知識を持っている。ワクチン、細胞療法は米国および国際的な最高の標準を満たしているメキシコの 22 病院からなる最大の民間病院ネットワークの最も近代的な施設で管理されている。同病院はメキシコで統合医療を提供する唯一のフルサービスの病院である。

イッセルズの治療プログラムと施設についての詳しい情報を知り、より多くの患者の証言ビデオを見るにはイッセルズのウェブサイト (www.issels.com) へ。

ソース : The Issels Foundation

▽問い合わせ先

Ilse Marie Issels, President, Issels Foundation, Inc.,

888.447.7357,

issels@att.net